場所　栃木県小山市

面積　2ha

活動目的　地域住民の憩いの場として、地場産品（オーガニック）の創出の場として、環境教育の場として、さらに地域の生物多様性保全に貢献することを目的としている。



サイト概要　小山市鉢形の農家の屋敷林として、自然の営みを利用して暮らしと生業に供する環境が形成されている。

谷あいの土地に挟まれた舌状大地ともとれる場所に位置している。

サイト中央には農家の母屋がみられ、取り囲むように屋敷林がある。シラカシ等の常緑樹の植栽林、一部にコナラの二次林、一部にモウソウチク・マダケの竹林が見られるなど、現在もモザイク状の土地利用が残されている。

北側の竹林ではタケノコ採り、南側ではニホンミツバチを利用した養蜂も行われている。

土地利用の変遷

2000年代から里山林として再整備され、多様な動植物が見られ、自然観察会や生物多様性調査、森林浴体験等の活動が行われてきた。栃木県による「とちぎの元気な森づくり事業」の一環で保全・管理がされてきた。

サイト周辺の環境

台地を解析して流れる利根川水系西仁連川の低地(標高40m前後)に位置している。

市街化調整区域、農地が広がる中にあるが、周辺の平地林は徐々に開墾、工業団地としての開発が進みつつあり、貴重な緑地となっている。

アピールポイント

・地域の住民の憩いの場として、想いのある担い手により二次的自然として保全されてきている
・周辺農地を活用した地域振興を目指す新たな担い手に管理が継承されている
・わずかな面積ながらも多様な動植物が確認されている

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトでは、区域の中央に農家の母屋がみられ、取り囲むように屋敷林がある。シラカシ等の常緑樹の植栽林、一部にコナラの二次林、一部にモウソウチク・マダケの竹林が見られるなど、現在もモザイク状の土地利用が残されている。

【主な植生】

シラカシ、クスノキ等の常緑樹やクリ、コナラ、イヌシデ等の落葉樹からなる樹林のほか、スギ植林、モウソウチク、マダケの竹林や草地などがあります。

【確認された主な動植物など】

区域及び周辺では、2021～2022年の現地調査において、植物213種、哺乳類2種、鳥類23種、両生類・爬虫類3種、昆虫類107種が確認されている。
植物：カヤ、シロダモ、ユズリハ、シラカシ、ヒサカキ、ホオノキ、クリ、コナラ、アカシデ、イヌシデ、エゴノキ、ゴンズイ、ムラサキシキブ、イヌツゲ、ガマズミ、ヤマウグイスカグラ、ヘビノネゴザ、チゴユリ、ギンラン、キンラン、マダケ、モウソウチク等
哺乳類：アズマモグラ、キツネ
鳥類：キジ、キジバト、コゲラ、モズ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、シメ、ホオジロ等
両生類・爬虫類：ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ、アオダイショウ
昆虫類：ナツアカネ、モリチャバネゴキブリ、ヒゲジロハサミムシ、ケラ、ショウリョウバッタ、ヤスマツトビナナフシ、アオバハゴロモ、ニイニイゼミ、キマダラツヤアシブトヒメバチ、ツルガハキリバチ等



写真の説明：林内の状況



写真の説明：屋敷林で確認されたギンラン

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトの区域中央部に母屋があり、北側の竹林では、タケノコ採りが行われている。
南側ではニホンミツバチを利用した養蜂も行われている。

【主な植生】

シラカシ、クスノキ等の常緑樹やクリ、コナラ、イヌシデ等の落葉樹からなる樹林のほか、スギ植林、モウソウチク、マダケの竹林や草地などがあります。

【確認された主な動植物など】

区域及び周辺では、2021～2022年の現地調査において、植物213種、哺乳類2種、鳥類23種、両生類・爬虫類3種、昆虫類107種が確認されている。
植物：カヤ、シロダモ、ユズリハ、シラカシ、ヒサカキ、ホオノキ、クリ、コナラ、アカシデ、イヌシデ、エゴノキ、ゴンズイ、ムラサキシキブ、イヌツゲ、ガマズミ、ヤマウグイスカグラ、ヘビノネゴザ、チゴユリ、ギンラン、キンラン、マダケ、モウソウチク等
哺乳類：アズマモグラ、キツネ
鳥類：キジ、キジバト、コゲラ、モズ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、シメ、ホオジロ等
両生類・爬虫類：ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ、アオダイショウ
昆虫類：ナツアカネ、モリチャバネゴキブリ、ヒゲジロハサミムシ、ケラ、ショウリョウバッタ、ヤスマツトビナナフシ、アオバハゴロモ、ニイニイゼミ、キマダラツヤアシブトヒメバチ、ツルガハキリバチ等



写真の説明：竹林



写真の説明：養蜂

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
【活動計画の内容】 ＜活動内容＞ ・普及活動として以下を行う。 タケノコ堀りや梅干しづくりなどサイト内の自然を活用した地域の自然との付き合い方を学ぶイベントを実施する。 ・保全活動として以下を行う。 植栽植樹林については定期的に下狩りや低木の整理、落ち葉かき、外来植物除去等を行う。竹林については拡大侵入防止のために間伐やタケノコ堀りを毎年行っている。（詳細は添付資料３） ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ 活動団体が中心となってこれら保全・利用活動その他維持管理作業を行う。	**【モニタリング対象】** 植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類 **【モニタリング場所】** 憩いの森鉢形 **【モニタリング手法】** 任意調査 植物：任意踏査 哺乳類：目撃法、フィールドサイン法 鳥類：ラインセンサス法、定点センサス法、任意観察法 両生類・爬虫類：直接観察法、捕獲調査法 昆虫類：直接観察法、任意調査 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** ５年おきに実施 **【モニタリング実施体制】** 「生物多様性おやま戦略（令和5年度中に改定予定）」の改定作業にあたって、令和３～４年度に当該地の調査を行っている。 計画期間は、10年間となっており、令和10年の中間年にモニタリング調査を実施、令和15年の改定年度前にも同様の調査を実施予定。